

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きっず・もも Jump		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12家庭 (15名)	(回答者数) 12家庭 (15名)
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		～ 令和8年2月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○ 分析結果

P.1

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門的な知識や技術を持ったスタッフが在籍している	<p>・技術を持っているスタッフに活動計画の原案をお願いし、全体で共有。役割を分担し、スタッフ自身ができることを行ってもらっている。</p> <p>・支援についての悩みや相談など、適時対応できるように風通しの良い環境作りを行っている。月に1回の会議では前回会議以降にあった事例などを含めて、全体で考察できる機会を設け、支援の方向性や手法について学ぶ機会を設けている。</p>	<p>・支援や活動の内容について、興味や疑問を持った際に、専門的スタッフへの確認を行うことと並行して自身で研修を受けたり書物を読んだり裏付けの確認を行うことが重要。</p> <p>・支援に対する意識付けを行うために、目的を持った活動の提案・立案計画、実施と評価(各自アセスメント)をとる機会を設けていく。</p>
2	<p>・広い畑や果樹園で、果物の栽培→収穫→無人販売への出品なども含み、調理室もあるため食育、経済についての学習などが経験によって「なんとなく」「イメージで」習得できる環境がある。</p> <p>・自立支援に必要な金銭管理、家事全般などの支援課題を取り入れて、生活していくために必要な力を養い、支援を継続して定着していくことができる。</p> <p>・シューズ洗い、洗濯、掃除など普段はお父さんお母さんがやっている家事について自身を持つことで、自宅でも「お手伝い力」を発揮してくれる子供が増えているとのこと。</p>	<p>・調理師や食品衛生管理者の資格を保有しているスタッフもいることから、食育についての学習を行うことができる。隣接している畑でとれた野菜を使ったり、買い物学習も通じて「こどもたちが調理して、子供たちが食べ、子供たちが最後の片付けまで終わらせることができる」という食育や洗濯・掃除の自立支援を合わせた活動を行うことができる。</p> <p>・材料の買い出し、1人300円×食べる人数で食材費を計算し、購入に行く。買い物物の仕方、お金の支払い方も体験を重ねて習得していけるよう、「感覚をつかむ」ための経験を積むことができる。</p> <p>・金銭管理については、おこずかいを1日100円と決め、月の利用日数を乗じた額を持参してもらう。その中でやりくりを行うことを目的として昨年度から取り組んでいる。「食べる量」「我慢して貯める」「お店で購入し支払う」「おやつを仕入れて他者に売るための種類の考察(駄菓子屋仕入れ)」など楽しみながら活動に取り入れて、汎化できていることも増えている。</p>	<p>・食育については、わかりやすい手順や野菜の切り方についてのレシピを制作することで、子供たちに指導するスタッフの指導の軽減(目で見えてわかり、対応する)が出来るようになると思われる。</p> <p>・家事に自身を持ち、ご自宅でも「役割」を持たせていただくこと、履行したら「ありがとう」「助かった」の言葉を保護者様よりいただくことで、自立を視野に入れた自信を持つことができる(既に実施されていて、親御さんが体調不良の際、家事をすべてしてくれた子供さんもあるという)。「させられる」ではなく「お勉強して経験を積んだら出来るようになった」「もっと、やってみたい」など、子供たちの自主的な気持ちから生まれる自立につながるお手伝いを期待している。</p> <p>・発展として、「土曜日」に子供たちだけで遊ぶ日を作った。地域での交流や遊びの発展が難しいご家庭や子供たちに、療育の場を貸し出して、お友達と一緒に計画し遊ぶ、お金の使い方も身に着ける、公共の交通機関で目的地まで行く、などの体験を子供たち自身が考え、計画し、行うことができるようになってきた。自立支援として今後も見守っていききたい。</p>
3	<p>・スタッフが自分の意見や思いを、他スタッフに伝えることができる環境が自然と出来上がっている。スタッフ自身も、支援のしやすい子、苦手な子、など、これまでの経験や子供たちの特性に自身の合う合わないがあるかと思う。それを隠さず苦しさについて情報連携を行うことで、支援する子に特に適したスタッフが誠心誠意子供のために支援することができるための配置を行っている。(自閉症の子が好きなスタッフ、ADHDの子の支援が得意なスタッフ、知的の子への関わりが上手なスタッフ、など)</p>	<p>・苦手や得意を伝えてもいい環境の構築。上手くできそうにない活動については、補助についてもらうなど、スタッフの適性に合わせて作業や活動へ割り振っていく。ただし、自分自身の仕事・支援に責任を持って対応してもらう必要があるので、月に1回の会議の際に仕事の棚卸しを行い、意見交換の場を設ける。</p> <p>・社会科活動(戸外活動、社会科見学、体験等)を多く取り入れ、その子供たちの特性やその活動の時の役割を認識しながら支援に当たること、子供たちとのコミュニケーションや絆を深めていく。</p>	<p>・スタッフの向き不向き、専門性を鑑み、最適な環境で子供たちの支援を行っていくための人員配置を行う。</p> <p>・放課後等デイサービスと児童発達支援の交流も、一つ、子供たちの成長発達には必要な時間となることから、計画的に同法人内での交流の時間を持つことも必要と思われる。交流する時には、自由遊びの内容の吟味などを行い、効率的に、お互いが無理なく過ごせるよう曜日・時間を調整していく。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>・知識や技術の差が、それぞれのスタッフで大きくあることで役割分担をしているが、縦割りとなると支援としても難しい面があること</p>	<p>・専門的な知識の習得から定着までが時間がかかる（経験、実体験、子供の成長から支援について振り返る力）</p> <p>・色々な子供たちに同じ接し方（一人の子で成功した接し方を他の子に対応してしまったり）とする様子が見られていた。上手く行かないことで、職員自身から問題提議があり、特性やそれぞれのかかり方について、伝える場を設けているが、難しい面もある。</p> <p>・社会活動へ参加するための療育に関する方法や技術・知識の受け取り方が研修を得てもスタッフによって異なり、目的が変わってきてしまう</p> <p>・仕事量が多いスタッフと、少ないスタッフにおのずと分かれてしまい、現場の仕事量が上手く回らない。</p>	<p>・出来ることを、出来る人に手分けして行っていくようにするし、それぞれのスタッフの立場に於いて環境的、身体的、もともとの仕事量的に無理なことは「無理」として全体で把握し、仕事の割り振りを行っていく。</p> <p>・個別支援や小集団の支援、グループ支援につくスタッフを名指しで対応してもらい、全体的に管理・アセスメントを取るスタッフがサブでつくようにすると、OJTが上手く行くのではないかと思われる。</p> <p>・それぞれの子供の成育歴や発達の状態等に合わせて、TEACCH、ABA、などそれぞれ適時支援方法を合わせる必要があることを理解してもらい、的確な指示を行う。</p>
2	<p>・敷地が広く、手入れが大変</p>	<p>・計画的に畑の管理や、敷地の手入れも子供たちと一緒にやっていくことを課題としているため、子供たちの発達状況に併せて活動（係）を割り振っていることから、「まとめて」「一緒に」行うことが難しいため、時間と係を決めて時間帯で活動に取り組むようにしたところ、目で見ても「今から自分たちだ」とわかり、お友達に声掛けしたり、スタッフに声掛けしたりとして自主的に対応できる子供たちが増えた。</p> <p>・危ない作業はスタッフが行う。すべて準備をしてあげるのではなく、出来る事を出来る子にしてみせよう、といった配分に対する支援を見極めるスタッフが少ない現状があるため、つつい子供たちの出来る事までスタッフがやってしまい、子供たちは面白みや現実感をそがれてしまう形になってしまう（子供の発達段階によって、必要な調整が行えない）場合もある。</p>	<p>・スタッフ及び子供たちを班に分け、それぞれ担当/やること/係を決めて割り振り、自主性を持って取り組めるよう指針やガイドブックを定め、学習する時間を持つ（種まき、土づくりの時期、水のやり方についての内容なども理解楽しんで活動できるよう、絵で示す必要もある）</p> <p>・事前に役割を決めて、対応を「子供たちに」お願いする。「先生一人でやるのは大変だから、手伝ってもらおうと助かるよ」などで、子供たちの自尊心に働きかけ、お手伝いをしてもらう方法をとると、作業が苦手な子であっても、対応してくれる。終わったら「さすがだね、ありがとう。あー、でもまだあそこ残ってる…。どうしよう」と困って見せると、「また今度来た時に、お手伝いするね」と言ってくれる。次回の来所時には、「先生、今日は、あそこをするんだよね」と覚えていてくれる。そういった声掛けを続け、子供たちの自尊心や自主性の成長を促していく。</p> <p>・子供たちを信じ、尊重して役割を任せっていく覚悟を持つ。</p>
3	<p>・スタッフの体力勝負の活動が目白押しである</p>	<p>・子供たちに色々体験してもらいたいという欲求のために、スタッフは体力勝負な面も多い。子供は元気なので、もっと遊ばせたり学んだりとさせてあげたいと思っているが、難しいこともある。（山登り、公園遊び、プールで水泳の練習なども含む）</p>	<p>・スタッフの体力向上（福利厚生）、休む時間は休むといった切り替えができるよう、使っていない部屋に室内の運動器具を設置。休憩時間は睡眠をとるスタッフもいる。それぞれスタッフ自身が、体力回復、リラクゼーション、気分転換ができるように配慮する。</p>